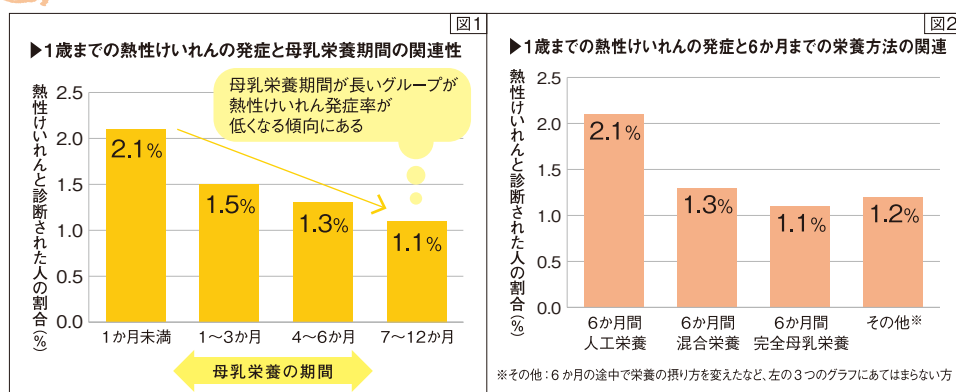


環境省が中心となって行っている「子どもの健康と環境に関する全国調査」エコチル調査。2020年で10年目を迎えました。現在、全国約10万人の調査参加者の方から頂いたデータをもとに、大勢の研究者によるデータの解析がすすんでいます。2019年からは、小学2年生(8歳)になられた参加者のお子さまを対象に、直接お会いして、身体測定や発達検査を行う「学童期検査」も始まりました。次世代の子どもたちが安心して暮らせるよりよい環境づくりのために、さらに研究解析をすすめ、成果を発信してまいります。今後ともエコチル調査へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

2019年に高知ユニットセンターの研究員 満田直美先生と小森香先生が発表された研究をご紹介します!

① 母乳で赤ちゃんの熱性けいれんが起こりにくくなる?

「1歳における授乳期間と熱性けいれんの関連」より



熱性けいれんは、生後6か月から5歳頃までに、38度以上の発熱時に起きるけいれん発作です。典型的には熱の上がり際に突然意識がなくなり、身体が硬くなり手足を震わせ、顔色も悪くなりますが、多くは5分以内に自然におさまります。熱性けいれんの起きやすさにはご両親も熱性けいれんを起こしたことがあるなど遺伝的要因が大きいといわれていますが環境要因との関連についてはあまり知られていません。熱性けいれんの発症年齢は1~2歳がピークですので、今後2歳、3歳の時点での熱性けいれんのおこりやすさと環境要因との関連性についても引き続き解析していく予定です。

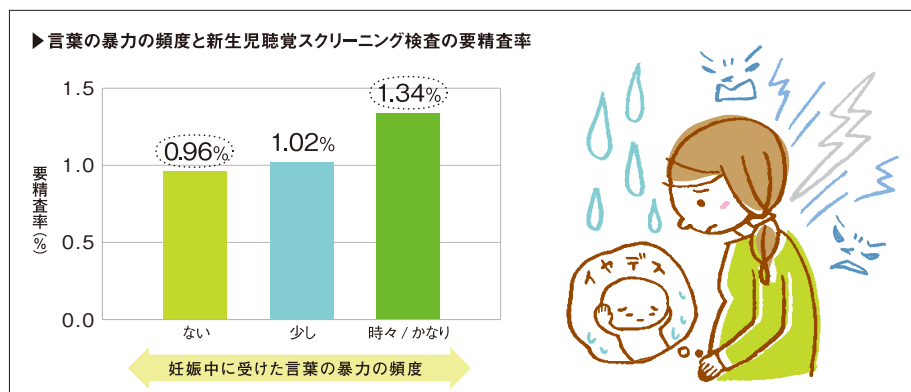
今回、正期産(37週以降)で生まれたお子さん84,082人を対象に、1歳までの熱性けいれんと母乳栄養期間の関連性について調査しました。1歳までに熱性けいれんと診断されたお子さんは全体の1.2%(995人)でした。母乳栄養期間には、保育所等の利用、兄弟児の有無など多くの要素が関連しているので、それらの影響についても調整しましたが、母乳栄養期間が長いお子さんや生後6か月まで完全母乳栄養で育ったお子さんでは、母乳栄養期間が短いお子さんや混合栄養・人工栄養で育ったお子さんに比べ熱性けいれんが起こりにくいことがわかり、母乳栄養が乳児期の熱性けいれん発症リスクを下げる可能性が示唆されました。



満田 直美先生
高知大学医学部
環境医学教室
特任助教/小児科医師

② 妊娠中のパートナーからの暴言は赤ちゃんの聴覚に影響する?

「妊娠中に受けた暴言による新生児聴覚スクリーニング要精査の増加」より



新生児聴覚スクリーニング検査で要精査になったすべての子どもが最終的に難聴になるか否かは、これからの研究によりますが、少なくともお父さん(パートナー)からお母さんへの暴言が赤ちゃんの神経発達に悪影響を及ぼす可能性が示唆されました。悪影響を及ぼす原因として、お母さんの強い精神的なストレスが赤ちゃんの発達を遅らせること、お母さんのドキドキはおなかの中にいる赤ちゃんにも伝わることで、騒音によって赤ちゃんが難聴になることが知られていることから、暴言にも赤ちゃんの発達を遅らせる可能性があると考えています。このことから、お母さんのためだけでなく、赤ちゃんのためにも、心地よい環境がとても大切だということが分かりました。

妊娠中にパートナーから言葉による暴力をたくさん受けると、出産後の新生児聴覚スクリーニング検査で、「精密検査が必要(要精査)」となる率が上がることが分かりました。新生児聴覚スクリーニング検査を受けた79,985人のうち、「要精査」になった赤ちゃんは0.98%(787人)でした。暴言が「ない」場合は0.96%ですが、パートナーからの暴言の頻度が増えると「要精査」となる赤ちゃんが増え、暴言が「時々/かなり」では1.34%と増加しました。

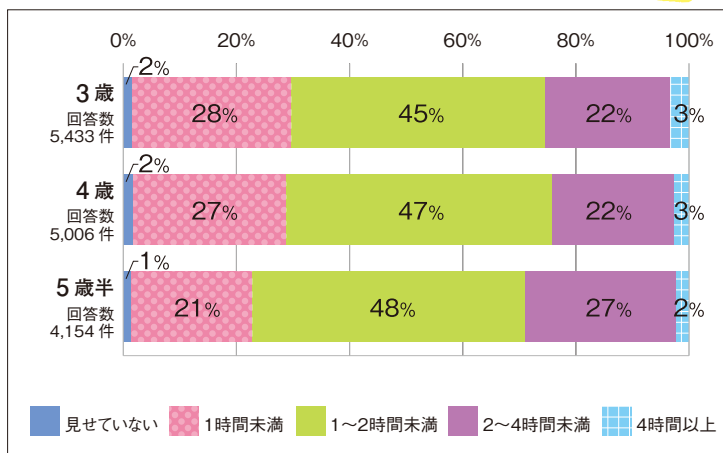


小森 香先生
高知大学医学部
環境医学教室
特任研究員/臨床心理士

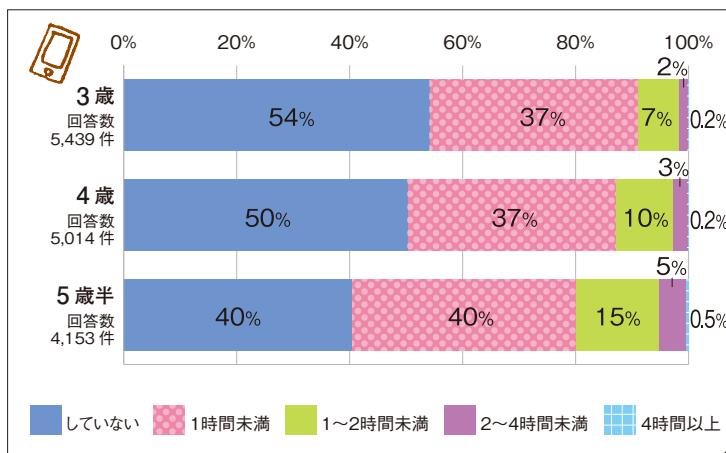
③ お家でどう過ごしている？ 小さなお子さんのメディアとゲームの使用時間

こうちエコチル調査の3歳～5歳半のお子さんの質問票調査の回答より、集計結果の一部をご紹介します。

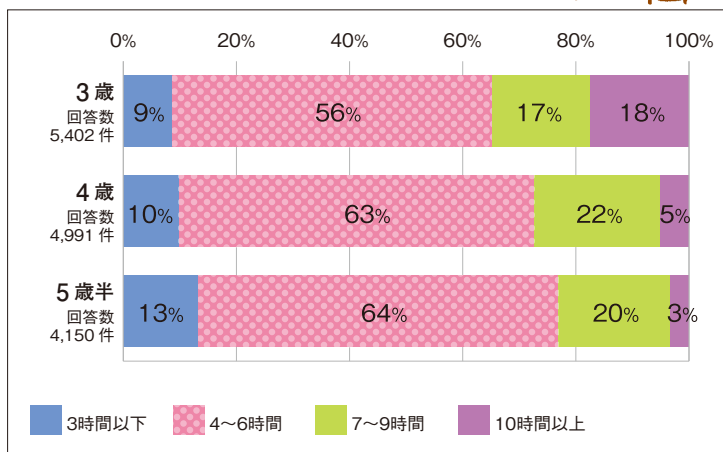
▶ふだんの一日、お子さんにテレビやDVDなどを
何時間くらい見せていますか。



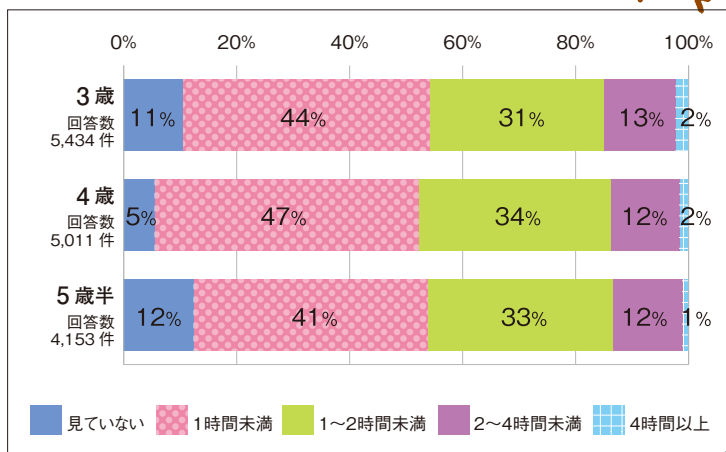
▶ふだんの一日、お子さんが、携帯電話、携帯情報端末や電子ゲーム機
などを触ったりいじったりしているのは何時間くらいですか。



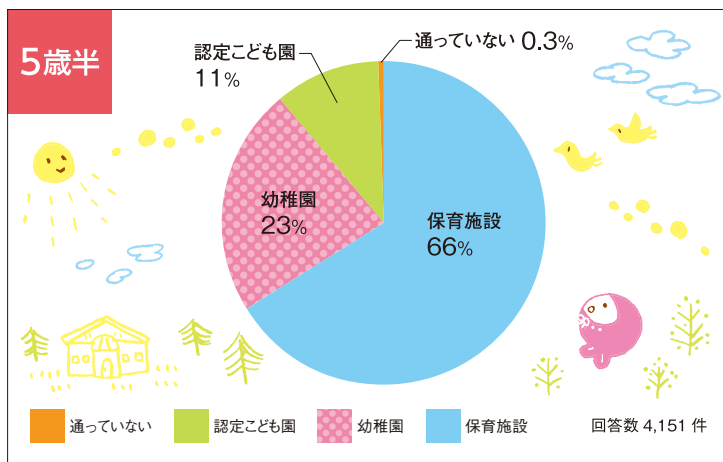
▶ふだんの一日、お子さんはあなたと
何時間くらい一緒にすごしていますか。



▶ふだんの一日、あなたはお子さんと一緒に
テレビやDVDなどを何時間くらい見ていますか。



▶お子さんは幼稚園、保育施設（保育所・託児所など）
あるいは認定こども園のいずれかに通っていますか。



今回のこうちエコチル調査の集計では、テレビやDVDの使用時間は1～2時間が最も多く、電子端末での動画視聴やゲームは「使用していない」、「1時間未満」使用のお子さんが80%以上でした。テレビやDVDは親御さんがいっしょに見ているご家庭も多いようです。ですが、接触時間は年齢が上がるとともに増加し、5歳半では2時間以上テレビを見ているお子さんが約3割、1時間以上電子端末やゲームを使用しているお子さんが2割いるという結果でした。

メディアや電子端末との接触は私たちの生活にかかせないものとなっています。幼児期のメディアとの関わりでは、「子どもが見る番組の選択や時間を親が意識してコントロールすること」や「内容をまわりの人と共有すること」など周りの環境が重要だといわれています。お子さんが小さい時期から、年齢に合わせて利用のルールやつきあい方を親子で話し合ってみてはいかがでしょうか。

この結果は2019年1月末時点のこうちの回答にもとづく（データクリーニング前の）暫定的な結果です。数値は小数点以下を四捨五入しています。％の加算値が100にならないものがあります。

お問い合わせ

◆エコチル調査高知ユニットセンター

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部内
エコチル調査高知ユニットセンター事務局

TEL088-855-4351 | 平日 9時～17時 |

mail info@kochi-ecochil.jp

こうちエコチル

検索

<https://kochi-ecochil.jp/>



◆エコチル調査コールセンター

〈全国共通〉

☎ 0120-53-5252

| 年中無休 9時～22時 |

子育て・健康相談は

こちらまで！